（２）展示空間の演出・ＰＲ方策

フィールドミュージアム構想を内外にアピールするための演出・ＰＲ方策として、特に次の事項に配慮しつつ、展示空間の抽出・指定・整備を行う必要がある。

- **伝説、祭、伝統行事等を組み入れたシナリオづくり**
- **学研都市周辺の有名な観光資源との連携**
- **環境資源としての木津川の保全・利用**
- **里山・田園空間の保全・利用**
- **公募による展示空間指定**

１）伝説、祭、伝統行事等を組み入れたシナリオづくり

フィールドミュージアムは、単に抽出された展示空間をネットワークするだけではなく、テーマ性や物語性を組み込んだルートとして作り上げていくことが望ましい。わが国の歴史・文化発祥軸に位置する学研都市には、数多くの伝説、民話や歴史にまつわる物語が伝承されている。また、伝統的な祭や行事、伝統工芸が地域住民によって受け継がれてきている。

そうした伝説、祭、伝統行事等を主要なルートに沿って、訪れる人々にわかりやすい形で伝えることによって、貴重な文化遺産がより理解しやすくなり、また、学研都市のイメージもより親しみやすいものとなる。

学研都市とその周辺に伝わる伝説、祭り、伝統行事等

■伝説・物語

出　典	場所・地名	概　　要
古事記・日本書紀	金鵄発祥の地（生駒市）	神武天皇東征の長髄彦との戦いの時、このあたりで金鵄が出てきて長髄彦が敗れたという伝説
	祝園神社（精華町）	第十代崇神天皇（４世紀）が武埴安彦の反逆軍を破った場所。敗退した兵を斬り「屠（はふ）」った（投げ捨てた）、あるいは死体が「溢（はふ）」れた（あふれた）ところから、その地を「ハフリソノ」といい、祝園（ほうその）の地名になった
	柞(ははそ)の森（精華町）	紅葉の名所で、和歌等にも歌われている。 時わかぬ波さへ色に泉川ははその森にあらし吹くらし 藤原定家（新古今和歌集） 山城の国柞の森などに、紅葉いとをかしきほどなり 菅原孝標の娘（更級日記） 泉川ははその森に鳴く蝉の声の澄めるは夏の深きか 源実朝（金槐和歌集）
	筒城宮跡（京田辺市）	仁徳天皇皇后磐之媛（いわのひめ）が晩年に住んだ場所。磐之媛は嫉妬ぶかい皇后として有名。浮気性の天皇を許さず、難波の宮には戻らずにここで生涯を終えた
	酒屋神社（京田辺市）	神功皇后が三個の酒壷を神社の背後の山上に安置して諸神を祀り、三韓征伐から凱旋の後、社殿を建てて酒屋神社と名づけたという伝説が残る
	一本松（木津町）	垂仁天皇が丹波の王女たち４人を召したが、下の二人は醜いということで国に送り返された。二人は恥ずかしくてとても帰れないと、山城の相楽に至ったとき木の枝に懸かって死のうとした。「懸木」（さがりき）から相楽の地名が起こったという伝説がある

出　典	場所・地名	概　　要
平家物語	平重衡の墓・安福寺・ ならずの柿・首洗い池 （木津町）	重衡は清盛の四男、一の谷の合戦の際須磨で生け捕りにされた、平氏の捕虜第１号。重衡は、南都に焼き討ちをかけて東大寺大仏殿や興福寺など七堂伽藍を全焼させた罪のため、木津川のほとりに連行され首を切られた。なお、泉大橋を渡った山城町の泉橋寺の境内には、南都焼き討ちの際の犠牲者の供養等がある
	高倉神社・以仁王の墓 （山城町）	高倉宮以仁王は後白河天皇の皇子であるが、源氏再興のために源頼政にかつがれ、平氏打倒の先鞭をつけた。しかし、計画はうまくいかず、高倉神社あたりで平家軍に討たれた
太平記	泉橋寺 （山城町） 笠置山 （笠置町）	笠置は後醍醐天皇の行宮跡として知られる。また、鎌倉幕府打倒のはかりごとが露見して幕府軍の攻勢を避けるため、京都を出発し南都へ向かった途中、泉橋寺に立ち寄り朝食を取ったとされている
	四條畷神社・楠木正行の墓 ・飯盛山等 （四條畷）	1348 年、足利尊氏が南朝軍退治のために派遣した高師直らは、飯盛山や生駒山に兵を配して楠木方に対陣し、四条畷で楠木正行の軍と合戦、正行、正時、和田賢秀らが討ち死にした
今昔物語集	蟹満寺 （山城町）	蟹の恩返しの民話で有名。今昔物語集の蟹満寺縁起は、「山城の国の女人、観音の助けによりて蛇の難を遁れたる語」と題して、巻十六に載っている
	甘南備寺 （京田辺市）	今昔物語集の巻十四に、「山城の国の神奈比寺の聖人、法華を誦して前世の報を知れる語」と題する民話が載っている
近松門左衛門	来迎寺・お千代半兵衛の墓 （精華町）	近松の名作『心中宵庚申』の主人公お千代・半兵衛の墓がある。今の墓は２代目の新墓で、旧墓は削って飲むとノイローゼに効くという言い伝えがあり、削られてやせ細っている
その他	八丁三所伝説 （交野市）	嵯峨天皇（810～824 年）のころ、弘法大師が交野地方にこられた時に、獅子窟寺吉祥院の獅子の宝窟に入り秘法をとなえると、七曜の星（北斗七星）が降り、3 ヶ所に分かれて落ちた。それが、星の森、高林寺の境内、星田妙見宮のご神体の 3 箇所で、神仏が姿を変えてあらわれた影向石（ようごうせき）として信仰されるようになったと伝えられている

■歴史上の出来事

出来事（地名）	概　　要
都の造営を支えた泉川の水運 （木津町）	古くは、木津川は泉川、木津のあたりは泉と呼ばれていた。藤原京造営や東大寺造営にあたっては、各地の木材が泉川の水運によって運ばれ、泉の港(津)に陸揚げされた。したがって、泉の地は木材の陸揚の港であることから、やがて木津と呼ばれるようになった。
山城国一揆 （京都府域）	応仁の乱の後も畠山氏の内紛は継続し、南山城に戦火が及んだため、南山城の国人や農民が集会を開き、畠山両軍に三か条の要求を突きつけ、撤退を実現させた。民衆パワーにより、守護を廃して国持体制を守ったが、幕府は８年後に新守護の入部させ、入部に反対する国人が稲八妻城(精華町)にこもり抗戦を行ったが落城した。
徳川家康の伊賀越ルート （京田辺市）	戦国時代の本能寺の変の際、堺に滞在していた徳川家康が、急遽本拠地の三河へ最短距離のルートで帰った。これを「伊賀越」といい、家康の渉外最大の危機に数えられている。その際、枚方を経て田辺に落ち、天王地区の朱智神社で、休憩あるいは仮の宿を求めたといわれている。また、飯岡の共同墓地内には、家康の家臣穴山梅雪の墓がある。穴山梅雪は、武田勝頼を裏切って信長方に寝返った経緯のある武将で、なぜか逃避行の途中で家康に遅れ、草内の渡しで命を落とした。

■祭り・伝統行事

祭・行事（地名）	概　　要
ずいき神輿巡行 （棚倉孫神社：京田辺市）	10 月 15 日に棚倉孫神社の例祭に 2 年に一度繰り出す。みこしはずいきやナス、キンカンなど 26 種の野菜や乾物を使い色鮮やかに飾る。重さ 400 キロある神輿を運ぶのは大仕事。巡行は 10 月 10 日。
山本の百味と湯立 （寿宝寺：京田辺市）	10 月 12 日に野山から収穫した 100 種類以上の産物を集め、それを 17 日に供える。また、安全祈願や五穀豊作を願って、煮えくり返った釜の湯を神笹で巫女が氏子に振りかける。
竹送り行事 （山城松明講：京田辺市）	奈良東大寺二月堂で行われるお水取の松明に使う竹を切り出して送る「竹送り」の行事が 2 月 11 日に行われる。観音寺を経て、東大寺に送られる。
いごもり祭 （祝園神社：精華町）	南山城最古の奇祭。柞の森にこもった鬼神を鎮めるために神様にお願いしたのがこの祭りの始まり。暗闇の中で松明を持った人が種まきのまねをする儀式が行われる。儀式が行われている間は、村全体が消灯するなど、古いしきたりが残されている。山城町の和伎神社でも同様の祭りを行っている。
相楽神社の宮座行事 （木津町）	相楽神社では中世以来の宮座行事が良く伝えられており、中でも正月に行われる一連の行事（1 月 14 日の「豆焼」、15 日の「粥占」「御田」、2 月 1 日の「餅花」、旧暦 1 月 15 日の「水試」）は、府指定文化財になっている。稲作の過程をおもしろく演ずる「御田」や餅の花が拝殿いっぱいに開く「餅花」は一般に公開されており、遠くからの見学者も多い。
布団太鼓台祭 （岡田国神社：木津町）	10 月 21 日には、子供を乗せ、太鼓を打ち鳴らしながら担ぎ廻る、勇壮な布団太鼓台祭が行われる。当日は屋台も出て賑わう。布団太鼓台祭は、豊作を感謝する村挙げての重要な祭で、御霊神社、田中神社、若宮神社、大宮神社絵も行われている。
恵美寿祭・祇園祭 （天王神社：木津町）	正月 5 日には恵美寿祭が行われ、吉兆（笹飾り）を求める人々で賑わう。また、7 月 7 日には祇園祭が行われ、多くの夜店が出て賑わう。
七夕祭（機物神社：交野市）	毎年 7 月には、境内はササでいっぱいになり、願いを込めて書かれた短冊が飾られる。七夕伝説発祥の地と伝えられるだけあって、ササの飾りつけも見事。露天もたくさん出て、昔ながらのムードに溢れた、とてもにぎやかな夜になる。
月見泥棒 （田原地区：四條畷市、高山地区：生駒市）	お月見の時に、小学生くらいのこどもたちがお供えの「だんご」や「お菓子」を近所の家を訪ねて集めてまわる行事。全国で例があるが、四條畷市の田原地区や生駒市の高山地区で今も風習が残る。

■伝統工芸

伝統工芸（地名）	概　　要
茶筌の里 （高山地域：生駒市）	生駒市高山地域は、国内生産の 90%を占める茶筌の里として知られている。一子相伝の典型的伝統産業として栄えてきた。現在 60 余種の茶筌を製造している。現在、約 40 軒がつくっており、冬は里のあちこちに材料を干す風景がみられ、いまや大和・高山の風物詩になっている。 奈良交通バスでは、『茶の湯コース』として、茶筌の里（工房見学）、長弓寺（拝観と食事）、赤膚焼元窯（見学）、西大寺（拝観と大茶盛体験）をめぐるツアーバスを運行している。（大人 7,490 円）

２）学研都市周辺の有名な観光資源との連携

学研都市の周辺には、これまでも観光客に親しまれてきた有名な観光資源や、新たに歴史街道プロジェクトに位置付けられ、脚光を浴びつつある観光資源等が存在する。これらの知名度の高い観光資源とタイアップしながら、学研都市の展示空間を紹介していけるよう、トレイルのルート設定等を考慮していく必要がある。

学研都市周辺の観光資源の概要

観光資源	所在地	概　　要
山背古道と蟹満寺	井手町 山城町	山背古道は木津川右岸の山並みを背景に木津川を望みつつ歩く高台の道。木津町から城陽市まで全長 25km ある。周辺地域では山背古道を通じた取り組みが盛んで、「山背古道探検隊」ではメンバーになると専門家が案内してくれる観察会や体験イベントに参加できる。街道に沿って、今昔物語集にその縁起が残り、国宝の釈迦如来坐像を本尊とする蟹満寺やその他の神社・仏閣、田園、集落等が続く。
当尾の里	加茂町	当尾は、尾根伝いに岩船寺、浄瑠璃寺の堂塔が並んでいてことからあてられた。石仏の里として知られ、岩船寺から浄瑠璃寺への道筋には様々な表情の石仏がたたずむ。石仏と並んで、当尾では道端の野などの無人スタンドが名物になっている。
笠置寺	笠置町	笠置山の山上を境内とする真言宗の古刹。天武天皇によって建てられた寺で、東大寺の良弁僧正や空海（弘法大師）によって整備された。古くから修験道の霊峰として知られる。後醍醐天皇がここを行宮として蜂起したため戦場となり、火災でほとんどの建物が焼失した。眼下に木津川を見下ろす眺望は美しい。
柳生の里	奈良市	柳生新陰流の開祖、柳生一族ゆかり地。旧柳生藩家老屋敷、旧柳生陣屋跡、柳生家代々の菩提寺である芳徳禅寺等、一族ゆかりの史跡が残る。
生駒山と宝山寺	生駒市	生駒山は日本初のケーブルカーが導入されたところ。山上には生駒山上遊園地があり、大阪・奈良の展望が楽しめる。生駒の聖天さんとして親しまれている宝山寺は、役の行者が開き弘法大師にもゆかりの修験道であったところを、江戸初期、宝山湛海律師が大聖歓喜天尊を祀って大聖無同寺と証し、後に宝山寺と改めたもの。
青谷梅林	城陽市	青谷地区東方の丘陵地を中心に広がる約 1 万本の梅林。鎌倉時代の歌にも詠まれ、観梅の宴が催されたという。
枚方宿	枚方市	枚方は淀川の川港、枚方宿として古くから栄えてきた。枚方宿は淀川沿いの 1.5km にも及ぶ宿場町。表は京街道に面し、道行く人に商売をしていた。

３）環境資源としての木津川の保全・活用

木津川は、単に広大な水辺オープンスペースである以上に、この地域の母なる川として歴史・文化を育んできたシンボル空間である。フィールドミュージアム構想においても、都市住民が心身をリフレッシュするリゾート空間として、木津川の保全・活用方策を打ち出す必要がある。

平成 10 年、京田辺市、井手町と相楽郡の 7 町村の若手経営者などでつくる山城青年会議所が中心となり、行政、各種団体等が参加して、行政界にとらわれない広域的なまちづくりを考える場を作ろうと、「木津川流域ネットワーク会議」が結成された。地域のまちづくりを

進める上で「木津川」をキーワードに、新しい文化を創造していくことを活動の目的としている。平成 11 年 9 月には、地域住民が川遊びや水生生物の観察を楽しむことを通して木津川を見つめ直し、地域のまちづくりに取り組んでいく契機となることを目的に、普段は踏み入ることのできない木津川河川敷を開放し、「木津川遊びフェスタ」を開催している。これらの取り組みと連携しつつ、木津川の展示空間化を進めていくことが考えられる。

＜参考＞木津川流域ネットワーク会議の概要

設　　立：平成 10 年
目　　的：まちづくりに関心のある方々のネットワークを構築し、情報の交換を通して明るい豊かなまちづくりを目指す。
構　　成：山城青年会議所（事務局）、商工会、山背古道探検隊、相楽ふるさと塾等各種団体、(財)学研都市推進機構、オブザーバーとして行政
活動内容：フリートーク形式のワークショップでまちづくりに対する意見交換をおこなっている。議論の成果として、平成 11 年 9 月に「木津川遊びフェスタ」を開催した。

４）里山・田園空間の保全・利用

都市化が進展し、心の豊かさやゆとりを重視する人々の価値観や自由時間の増大等に伴って、自然とのふれあいやアウトドアライフへの志向が強まっている。農村の持つ豊かさや自然・文化が再評価され、それと共に農業体験や田園環境のもとでのレクリエーション需要が高まりつつある。一方で、農業サイドも都市住民との交流機会を積極的に創り出すことを通じて、新たな農業の展開と農業振興を図ろうとする政策が展開されつつある。

3 府県界周辺の里山や田園風景は本都市の貴重な資源であり、フィールドミュージアム構想においては、これらの保全を図りつつレクリエーションゾーンとしての活用を図る必要がある。農村型のレクリエーション・リゾート施設として観光農園、市民農園、グリーンツーリズム等が考えられる。グリーンツーリズムは「緑豊かな農村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動である。美しい村づくりをベースに、宿泊施設をはじめとして、レストラン施設、体験施設、交流施設等を整備し、農村で楽しむゆとりのある休暇を提供しようとするものである。

また、学研都市の奥座敷的な立地を活かし、日本的な自然環境と古い民家や茶室など伝統的な環境のもとでもてなす迎賓機能の導入も考えられる。

５）公募による展示空間指定

学研都市内の居住者や研究者、学研都市を訪れる訪問者など、様々な人々がフィールドミュージアム構想に関わりを持てば、より地域への理解を深め、本都市に愛着がもてるようになる。そういった人々を巻き込む方法として、展示空間を公募することが考えられる。

現在、大林組けいはんなセンターがホームページ上で『学研都市百景』の公募を行っている。この取り組みと連携しつつ、ホームページ以外の方法でも公募を行い、展示空間として位置付けていく。例えば、ラ･プリマベーラやオータムフェスタの機会を利用し、『けいはんな 100 景』を広く内外に公募し、写真展を開く等して情報発信していくことが考えられる。